

金沢学院大学

平成26年度 スポーツ健康学部 スポーツ健康学科

入学試験問題（推薦）

## 小論文

（注意事項）

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
- 2 解答は、解答用紙（原稿用紙）に書きなさい。
- 3 解答用紙には、原稿用紙以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入しなさい。  
①氏名欄  
氏名、フリガナを記入しなさい。  
②受験番号欄  
受験番号（算用数字）を記入しなさい。
- 4 問題用紙にも受験番号を記入しなさい。
- 5 問題用紙、解答用紙（原稿用紙）は持ち帰ってはいけません。

受験番号	
------	--

一、次の文章を読み、スポーツ指導における体罰の問題について、あなたの考えを一八〇字以上二〇〇字以内で述べなさい。

評論家・多木浩二は「ほとんどの国では英語のままスポーツという単語を使っている。これは英語のスポーツという言葉で表される、ゲーム成立過程で内面化された様々な意味合いをもった適当な言葉がない土地に、それに相当する現象が生じたことを意味している」と述べている。日本は、多木の指摘する「適当な言葉がない土地」に当てはまる。それは、現在もスポーツという英単語がそのまま日常的に使われていることを見ても明らかである。

しかし、私たちの生活の中にはスポーツに関連する言葉として、体育や運動、あるいは競技や武道、レクリエーションといった言葉を見出すことができるが、それらは一般的に明確な定義づけがなされないまま、混同されて使われているケースが多い。

この点について、スポーツライターの玉木正之は、「明治時代に欧米からスポーツが流入して以来、日本では、長い間スポーツが文化としてみなされなかった。スポーツは、身体を鍛えるための（強い兵士をつくるための）手段、すなわち、体育と見られ続けたのである」とし、「その（体育とスポーツの）混同は、今日まで続いており、体育の日、国民体育大会といった言葉に残されている」と述べている。

多木と玉木に代表されるようなスポーツ論から見えてくる、日本のスポーツにおける歴史的問題点は「スポーツという文化が存在しなかった国に輸入され、今日まで文化としてとらえられずにきてしまっている」という根源的なものであるように思われる。

「まじめな仕事から一時的に離れる」という意味をもつ中世ラテン語の「デポルターレ」から由来しているスポーツは、本来、休養、楽しみ、遊びといった活動、すなわちレジャーや余暇活動、ゲームすべてを包括する「それ自体を楽しむための生活文化」であった。

しかし、日本では「楽しむ」「遊ぶ」といった観点よりも、「教育」「訓練の手段」としてスポーツをとらえてきた側面が強く、このことが「スポーツとは何か」ということを現在においても論じなければならなくなった主要因であり、日本のスポーツに課題が存在していると言えるであろう。

この歴史的な背景から培われてきた日本独特のスポーツのとらえ方の中に、独りよがりのスポーツ観を生み出す土壌が存在したと考えられる。

たとえば、「勝つことは善であり、負けることは悪である」というような風潮や、「野球道」などという言葉に代表されるような、スポーツの価値をプレー（遊び）することではなく、精神修養や教育的な手段として見出そうとする考え方は、この土壌から生まれてきた日本独特のスポーツ観ではないだろうか。このような土壌が、競技者一人ひとりのスポーツへの関わり方を否定したり、また、勝つことのみを評価する考え方を生み出してきた。

加えて、耐えることに必要以上の価値を見出そうとするような過度の精神主義の押しつけも、スポーツ道的に歪められてしまった歴史的背景から生み出されてしまったのではないか。そして、このような日本的なスポーツ観は、途中で活動をやめたり、他の競技に転じようとする者などを落伍者と扱い、試合に負けた者をあたかも人生の敗者のように扱う風潮も生み出してきた。

3人のスポーツ社会学者の意見を見てみよう。岸野雄三は、日本人のスポーツ観の特徴を「勝利主義、自虐主義、修養主義、娯楽性の欠如、排他主義、自己喪失」の6つに分類化し、また、菅原豊は、「求道主義、勝利主義、精神主義」にまとめた。さらに上杉正幸は日本人のスポーツ観を「苦しみのスポーツ価値意識」と定義づけている。

森川貞夫らは、「これらの特徴の中には、必ずしも日本人だけにみられる固有のスポーツ観とはいえないものもある」としたうえで、「これらの研究に共通する点は、日本人のスポーツ観の特徴は、身体よりも根性・闘志に代表される精神主義や、スポーツに熱中するあまり、遊びを忘れた極度の勝利主義にある。さらに集団主義に偏り、個人主体の論理は抑えられ、強い他律性によって支配されている点にある」としている。

いずれにしても、私たちの風土の中にこのようなスポーツ観が存在し、スポーツの場において、しごきや上下関係といった管理や暴力に代表されるような閉鎖性や封建性を生み出してきたことを、これからの指導者は、十分に認識しておかなければならない。そして、これは「デポルターレ」を語源とするスポーツ本来のあり方と異なったものであることも認識しておくべきである。

（河野一郎、勝田隆「知的コーチングのすすめ」大修館書店）

二、次の問題文について、一八〇字以上二〇〇字以内で答えよ。

「二〇二〇年に東京でオリンピックの開催が決定しましたが、オリンピックが今後の日本社会に与える影響について、具体的な例を挙げて、あなたの考えを述べなさい。」

（問題はここまで）